学校教育学部

新企画を加えスタートした新歓オリエンテーション

学生生活委員長 ❖ 小 平 胖 可

G Camp「朝食食べた。さぁやるぞ」

G Adventure〔ファイナル・ゲーム〕

学部単位の新入生歓迎オリエンテーションの実施について、学校教育学部では昨年七月から学生と教官による企画委員会を設け検討を始めた。

昨年の教室単位の実施に変え学部全体で計画することになったため「オリキャンは必要か」から検討を始めた。五百名を越す大所帯、実施場所、学生と教官のオリエンテーションに対する意識の違い等で委員会は難航したが、学部の特性、独自性をより出せる企画を取り入れる試みとして、Gキャンプ、Gアドベンチャー（市内オリエンテーリング）と名称をつけた二本立で実施した。

総参加者五百十九名、新入生参加率九九％で人数的には大成功であったが、二企画に分けて実施することは関係教官、職員、学生ともども実施当日はもとより、準備段階から大変な仕事であることを実感する。また、フェロー、スタッフ、実施委員会が、リハーサルキャンプ、リハーサル・オリエンテーリングを数回実施するなど万全を期して来たつもりであっても、小班（十～十二名）に別れて市内を行動するアドベンチャーでは、交通事故やポイント施設でのトラブルなど、全員が無事帰校するまで何かと気がかりであった。

Gキャンプは、広島市野外活動センターで一泊二日の日程で実施した。総数二百九十一名であった。初日は大雨に見まわれた。一時間に短縮されたがキャンプファイヤーが出来たのは救いであった。

二日目の午前中は班を離れ教室ごとの行事を行った。卒業生や先輩の話、野外観察や工作、ゲームや単位取得必勝法など教室によって内容は異なったが、新入生には非常に好評であった。

Gアドベンチャーは、一日行事として広島市内の郷土資料館、献血センターなど約四十箇所にポイントを設け実施した。こちらも終日大雨にみまわれた。下半身をずぶ濡れにして学生と行動を共にされた先生にはご苦労をおかけしましたが、学生の評判はすこぶる良かった。特に県外出身の学生には楽しめたようである。

反省会では、二企画の同時実施について多くの意見が出た。特に準備、運営上の煩雑さが今後の課題となった。また、学校教育学部の様に五百人を越す行事を学部行事として毎年実施して行くとなれば、最も大きな課題となるのは、学生の個人負担等々を含めた経費の問題である。新入生歓迎オリエンテーションを継続して行くためには、相応の予算措置が望まれる。

Gキャンプ総局長　森下　望

学校教育学部独自のオリエンテーションということで始まった今回の新歓行事は、ゼロからのスタートであり、思っていた以上に大変なものであった。

準備期間中に学生間、学生と先生方との間に幾つかの意見の食い違いがあった。また次から次へ足りないことが出てきた。このようなことを一つずつ乗り越えた時、自分も行事も成長して行ったと思う。

新入生が「参加して良かったね」と話しているのを聞いた時、これまでやって来て本当に良かったと感じた。今では、このような経験ができたことを非常に感謝している。これから社会に出て行くにあたり、大学生活で培ったこのような貴重な経験を生かしていきたいと思う。

学校教育学部の新歓行事がこれからも続き、より有意義なものに育っていくことを期待する。

Gアドベンチャー総局長　久保賢司

今、振り返ってみると「本当に良くやった」と思う。学部として初めて計画されたこの企画をやり遂げられよかった。いろいろな形でこの企画に協力し、支えてくれた人たちのおかげである。

四年間の大学生活の中で、研究室やサークルで数多くの経験をし、たくさんの友達が出来たが、最後にこの企画に参加し学年を越えた人との出会いで得た経験は実に素晴らしいものであった。これからの人生の中できっと役立つに違いないと思う。

この企画に参加して活動出来たことは本当に良かったと思う。